

中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会  
プラスチック製容器包装に係る再商品化手法専門委員会  
産業構造審議会環境部会  
廃棄物・リサイクル小委員会容器包装リサイクルWG  
プラスチック製容器包装に係る再商品化手法検討会  
合同会合（第8回） 主な意見

**議論の進め方全般について**

- ・短期と中長期に分けて議論する必要がある。

**再商品化手法のバランスのとれた組合せの在り方**

- ・材料リサイクル優先の理由を明らかにすべき。
- ・今後の可能性（技術革新等）を考えれば、特定の手法に偏った議論をすべきではない。
- ・平成19年6月の取りまとめにおいて、材料リサイクルは白色トレイに準じた再商品化の効率化の可能性を有しているとされたのだから、材料リサイクルが白色トレイの再商品化にどのくらい近づいたかを検証すべき。
- ・どの方法を採用とどうなるか、というシミュレーションも含めて議論していく必要。
- ・H22の入札については、材料リサイクル優先の根拠、材料リサイクルの限界、それを補うためのケミカルリサイクル、市民の協力を得るための方策、という部分を共通認識とした上で、議論を進める必要。
- ・材料リサイクルとケミカルリサイクルのポートフォリオのあり方の決定について議論してほしい。
- ・手法のバランスは重要だが、優先されるものの割合など現状を上回らない程度で「数値」を明らかにしてほしい。
- ・手法の優劣ではなく、良いものが選ばれたり、良くなっていくような仕組みを考えるべき。
- ・十把一絡げに材料リサイクルを優先するのではなく、材料リサイクルの中でも差をつけるべき。
- ・優先の決定については、多面的な評価をする仕組みをお願いしたい。
- ・材料リサイクルの再商品化に要するコストは、高止まりする可能性がある。競争が必要。
- ・何にリサイクルされているのか明らかにすべき。トレースされて消費者に見えることが重要。
- ・市民の意向に沿った手法になるようにできないか。

### 材料リサイクルの質の向上

- ・自治体がベール品質を向上させるインセンティブが必要。
- ・材料リサイクル用のベールとそうでないものとに分けて、棲み分けを図るという方法がある。
- ・材料リサイクルは優先されなければ事業化できない。
- ・自治体は分別の拡大に手を広げていく財政的余裕がない。
- ・残さ処理について制度設計をすべき。
- ・リサイクルの輪をどう作るかが重要。特定事業者を含めて利用拡大を図るよう、共創にどう参加するのか長期的には議論してほしい。
- ・プラマークが意味するところが分かりにくい。ラベルについても議論してほしい。
- ・材料リサイクルの限界等も含め、大きな流れを議論していくべき。例えば、材料リサイクルの限界をケミカルで補うようなことができないか。
- ・材料リサイクルの質の向上に関して、まだまだ限界には達していない。

### 適正かつ安定的なリサイクルの確保

- ・上限価格の具体的な内容を開示すべき。
- ・自治体の申請量と実績量の乖離を改善してほしい。

### その他

- ・LCA 分析について、平成 19 年の容リ協会報告書は、仮定を置いたときの一つの結論であり、どこに改善点があるかを判断する際の材料として使うべき。
- ・LCA 分析の際に、材料リサイクルにおいては、使用後処理として焼却とされているが、再商品化製品の繰り返し利用などマテリアルの循環利用を折り込むべき。また、残渣処理では、単純焼却は禁止されており、これを反映させるべき。
- ・容器包装以外のプラスチックのリサイクルについては、経費負担面を含めきちんとした議論をしてほしい。
- ・地域連携モデル事業について、途中経過を教えてください。
- ・資金拠出制度の検証をお願いしたい。